

九州正教会だより

第36号



(人吉・鹿児島・熊本・福岡)

2022年9月1日発行

発行人：司祭グリゴリイ水野 宏

〒868-0081 熊本県人吉市上林町979-5 人吉司祭館

TEL / FAX 0966-24-7861

mail ocj.kyushu@gmail.com

ホームページ <https://www.ocj-kyushu.com/>



9月11日にあたって

司祭グリゴリイ 水野 宏

2001年のアメリカ同時多発テロ事件発生以来「911」、つまり9月11日はこの事件の別名となってしまいました。しかし私たち日本正教会にとって、9月11日は洗礼者ヨハネがヘロデ王に斬首されたことを記憶する「前駆授洗イオアン斬首祭」です。

洗礼者ヨハネは救世主の到来が近いことを人々に告知させ、その救世主を迎えるために罪を悔い改めてヨルダン川で洗礼を受けるように呼びかけました。そして、救世主であるイエス自身も、ヨハネから洗礼を受けました（マルコ1章）。

後に、ガリラヤの領主ヘロデは、兄弟の妻ヘロディアを奪って自分の妻にしました。ヨハネはそれを律法に反する罪だと批判したため、投獄されてしまいました。ヘロデ王は世間の評判の高いヨハネを処刑せず、むしろ厚遇するほどでしたが、ヘロディアは目障りなヨハネを抹殺するために陰謀を企てました。それは、ヘロデ王の誕生日の宴席で自分の娘に舞をさせ、褒美にヨハネの首を所望するというものでした。ヘロデ王は客の前で「褒美に欲しいものを何でも取らせる」と言ってしまった手前、引っ込みがつかなくなり、ついにヨハネの首をはねてしまいました。（マルコ6章）

洗礼者ヨハネの死は命に代えて信仰を守った殉教とは性格が異なり、権力者の見栄によるものであって、全くの理不尽そのものです。理不尽というなら911事件で、ニューヨークのオフィスで普段と変わらぬ朝を迎えながら、たまたまテロリストの標的にされた2977人の犠牲者も同じかも知れません。また、あれから21年経った今でも、ウクライナでは普段と変わらぬ生活と尊い命を、突然奪われる人々が後を絶ちません。

このように罪が支配する現世で、理不尽な死は常に起こり得ることで、しかし、私たちキリスト者は仇への憎しみと復讐を考えるのではなく、生きて苦しんでいる者には愛を、死んだ者には祈りをもって接することを忘れないように心がけましょう。